

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連
 有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	歴史民俗資料室一般公開事業(主要事業)						
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	文化財保護係	評価票作成者 文化財保護担当係長 桑和広
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			基本施策	文化財の保護	コード 4 1 3
	項				単位施策(中)	学習環境の整備	コード 4 1 3 1
		生涯学習の推進			単位施策(小)	歴史民俗資料室の充実	コード 4 1 3 1 4
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	豊明市民及び歴史民俗に興味のある人		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	市内にある民俗資料の調査・収集及び研究を行い、適切な保管をする。また、資料室を一般公開することにより、歴史民俗に関する学習意欲を高めていく。		
1-5 事務事業の内容	歴史民俗資料室を年間12日午前9時から午後4時まで一般公開する。また、市内にある民俗資料の調査・収集及び研究を行い、適切な保管をする。						

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	一般公開については、PR方法の工夫と解説コーナーを設け、見学者の増加を図った。	資料等を収蔵するためのスペースが十分確保できない中で、歴史民俗資料室を一般公開し、貴重な民俗資料を後世へ伝承している。		交通の利便等に制限のある中で、歴史民俗の重要性について市民の意識を高めている。	
	平成19年度					
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	歴史民俗資料室年間見学者数(人)			650(人)	700(人)	歴史民俗資料室の一般公開(12日間)及びその他公開(小中学校等の総合的な学習などの臨時公開)の年間見学者数を指標とする。				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	964									
	人件費 c(千円)	731									
	合計コスト d(b+c)(千円)	278									
	単位コスト d/a(千円)	1,009									
		1人当たり1.0	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 歴史民俗資料収集等管理委託 468千円 薫蒸業務委託 263千円
 人件費 278千円(特別展準備 5回×3h×1人 一般公開 12回×6h×1人 3200円/h)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	964(人)									
	後期目標値に対する達成度(%)	137.7(%)									

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A									

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取組みの自己評価			
	平成18年度	小中学校等の総合的な学習における見学者は増加したが、一般公開の見学者数がやや減少している。	一般公開における見学者の増加に向けてのPR方法と特別展の展示内容の検討	小中学校等における総合的な学習の時間との連携は定着してきている。また、広く市民に歴史民俗に関する学習意欲を高めていくことができた。	平成19年度			平成20年度		
平成21年度				平成22年度			平成23年度			
平成24年度				平成25年度			平成26年度			
平成27年度										

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度			
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			